

口腔衛生学

講師	音山 洋介 奥川 剛志 轟 拓也	実施時期 単位数	第1学年前期 2単位 (30時間)	実務経験	○
一般目標 (GIO)	歯・口腔の健康に関わる社会の仕組みを理解し、歯科疾患の予防能力を高める態度を養うために、歯・口腔の健康と予防に関する基本的知識を習得する。				
授業概要	歯科疾患の予防の基礎としての口腔衛生学を十分理解する。				
学習方法	講義・DVD視聴				
成績評価の方法	定期試験100%				
教科書	全国歯科衛生士教育協議会(監) 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組みI「保健生態学」 医歯薬出版				
履修上の注意	歯科衛生士の業務において、その基礎となる科目です。理論と知識を確実に習得することが望まれます。				
参考書	松田裕子(編)「改訂 歯ブラシ事典」 学建書院 2012年 日本口腔衛生学会(編)「口腔保健のためのフッ化物応用ガイドブック」口腔保健協会 1994年 鴨井久一編著「新・歯周病をなおそう」 砂書房 その他				
実務経験のある教員 (概要、科目との関連性)	歯科医師としての経験をもとに口腔の健康に関する基礎知識を講義する。				

授業計画

[1～5：奥川剛志、6～10：轟 拓也、11～15：音山洋介]

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	歯・口腔の健康 歯・口腔の構造	歯・口腔の健康の定義を説明し、歯・口腔の健康保持増進する手段について概説できる。 歯と歯周組織および口腔を構成する組織の構造と働きを説明できる。
2	歯・口腔の発生と成長・発育 歯・口腔の機能	歯・口腔の形成・発育・発達・形成異常および機能について説明でき、口腔と全身の健康との関係について説明できる。
3	歯・口腔の付着物・沈着物	歯・口腔の付着物・沈着物を説明できる。
4	歯科疾患の疫学 口腔清掃の意義・清掃法	う蝕・歯周病の疫学的特性を概説できる。 口腔清掃の意義を説明し、清掃法の種類を説明できる。
5	口腔清掃法と用具 歯磨剤と洗口液・洗口剤	機械的清掃法の分類と用具の特徴を説明できる。 歯磨剤および洗口液・洗口剤の種類、組成を説明できる。
6	歯科疾患の疫学	歯科疾患の疫学的特性を概説できる。
7	う蝕の予防 I	う蝕の発病メカニズムと発病要因を説明できる。 う蝕活動性試験の意義を説明できる。
8	う蝕の予防 II	リスクに応じたう蝕予防方法を列挙できる。 う蝕発病の第一次、第二次および第三次予防を説明できる。
9 10	フッ化物によるう蝕予防	フッ化物の人間生態系における意義と生体内代謝を説明できる。 フッ化物の毒性を認識し正しい対処法を説明できる。 フッ化物のう蝕予防メカニズムを説明し、予防法を列挙できる。 ライフステージに応じたフッ化物の応用方法を説明できる。
11	歯周疾患の基礎	歯周疾患の種類と発病のメカニズム、および炎症の広がりと症状を説明できる。
12	歯周疾患の予防	歯周疾患のリスクファクターを列挙し、全身に与える影響、および予防法を説明できる。
13 14	口内炎・口腔癌・不正咬合・顎関節症・ 歯の形成不全・口臭症・口腔乾燥症の予防	口内炎・口腔癌・不正咬合・顎関節症・歯の形成不全・口臭症・口腔乾燥症の分類、実態、要因および予防について説明できる。
15	ライフステージごとの口腔保健管理	ライフステージごとの口腔保健管理について説明できる。